

# アイヌの人々の人権問題

～鳥取市人権施策基本方針 さまざまな人権問題から～

問い合わせ先 本庁舎人権推進課 ☎0857-20-3143



アイヌの人々は、古くから北海道を中心とした地域に住んでいた先住民で、自然の豊かな恵みを受けて、固有の言語や伝統的な生活習慣など、独自の生活と文化を築きあげてきました。

鎌倉時代以降、和人（アイヌの立場から見たアイヌ以外の日本人）が北海道との交易を盛んに行なうようになり、江戸時代には松前藩が蝦夷地（現在の北海道）をいくつかに分割しました。主だった家臣にアイヌとの交易を認め、それを商人に委たことにより、アイヌの人々は商人の横暴と搾取による苦しい生活を余儀なくされました。

明治に入り、政府は蝦夷地を統治下に置き、北海道と改称し、大規模な移住による開拓を進めました。近代的な土地所有制度の導入により、ア

イヌの人々は狩猟などの場を失っていき、さらには民族独自の文化の制限・禁止が、アイヌ語を話す機会の減少につながり、その文化は失われる寸前になりました。多数の和人の移住はアイヌの人々を被支配的地位に追い込み、さまざまな局面で差別の対象になっていきました。

明治半ばになると、政府はアイヌの人々の厳しい生活状況の改善を目的として、明治32（1899）年に「北海道旧土人保護法」を施行しましたが、あらゆる面で十分な改善に至りませんでした。

※その後の動きについては下表を参照ください。

**現状と課題**

現在、アイヌの人々は、北海道を中心に日本中で暮らしています。近年ではアイヌの人々の生活状況は徐々に改善されてきていますが、道民

## 近年におけるアイヌに関わる動き

- ◆昭和63（1988）年
    - ▷ウタリ問題懇話会が「北海道旧土人保護法」の廃止と「アイヌ新法（仮称）」制定の必要性を答申
    - ▷知事・道議会・ウタリ協会の三者が一致して国に要請
  - ◆平成9（1997）年
    - ▷「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」制定
    - ▷「北海道旧土人保護法」、「旭川市旧土人保護地処分法」廃止
  - ◆平成20（2008）年
    - ▷「アイヌ民族を先住民とすることを求める決議」衆参両院で採択
  - ◆平成21（2009）年
    - ▷アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会が内閣官房長官に報告書を提出
  - ◆平成22（2010）年
    - ▷「アイヌ政策推進会議」開催
- 出典：「アイヌ民族を理解するために」北海道環境生活部アイヌ政策推進室より一部抜粋



特徴的な文様の衣服の製作風景



儀式や祭り身につけた装飾品

**アイヌの歴史**

日本国憲法では、すべての国民は個人として尊重され、また、差別されないこととされています。しかし実際には今もさまざまな差別が残っています。

今回はその中でも鳥取市人権施策基本方針において取り上げられているアイヌの人々の人権問題について考えます。

# 初体験！ 職場で見つける心

～ 職場体験で学ぶ中学生の視線を追う！～



仕事の説明を受けている様子

「最初は担当の方がどんな人か心配だったけど会ってみると明るい人だった」などと返

「最初は担当の方がどんな人か心配だったけど会ってみると明るい人だった」などと返

本市では、中学校2年生全員を対象とした職場体験学習を実施しています。国府中学校2年の井上奏咲さんと松川泰己さんは、6月25日から28日まで鳥取市役所で職場体験しました。期間中に、他の職場で体験中の生徒取材し、この1ページを作成しました。生徒たちは初めての職場で何を感じ、何を学んだのでしょうか。

本庁舎広報室 ☎0857-20-3159

**地域のための仕事**

市役所本庁舎の前にある本家夢屋西町店で職場体験をしている中学生4人が、主にラーメンの配膳やテーブル拭き、皿洗いなどの仕事を体験していました。

体験中の中学生4人に話を聞いたところ、「お客さんが混雑して動くのが大変だけど、みんなと協力できていい」「最初は担当の方がどんな人か心配だったけど会ってみると明るい人だった」などと返

「最初は担当の方がどんな人か心配だったけど会ってみると明るい人だった」などと返

サンマート岩倉店は、食品や雑貨など生活に関わる物を販売するスーパーマーケットです。ここでは、4人の中学生が主に商品の陳列や奥にある商品を手前に出す作業などを体験していました。

まず、職場の方に仕事をし

「物を大切に扱うことに気を付けている」そうです。また、職場体験を通して「言われたことを行動に移せるようになった」と言っていました。4人の表情は明るく、楽しそうに働いていました。



商品を前出しする様子

## 編集後記

これまでは見ても何とも思わなかった市報がいろんな人が関わってできている事が分かりました。今後、市報を読む時は今までは違った見方で見ていきたいです。（松川泰己）

取材をして紙面を作るのは、大変な作業でした。市報はたくさんの苦勞のもとに成り立っているんだなと思いました。今度からは苦勞を感じながら市報が読めるようになると思います。（井上奏咲）

竹内市長にインタビュー

**鳥取市長から中学生へ**

職場体験初日に、竹内市長に面会し、インタビューしました。今の中学生にどんな事を学んでほしいかと尋ねると、「情報が地域の外のことに片寄っていて、中学生が地域のことを知る機会が少ないから、もっと地元のことに興味を持って鳥取市の魅力や、活躍している人などを知ってほしい」と話しておられました。私たちも地域の事はあまり知らなかったもので、もっと知って地域の魅力や良さなどをたくさんの人に伝えられるようになりたいです。